



福島県立図書館は令和6年7月で森合移転40周年を迎えました。

# 図書館だより no.249

2024（令和6）年9月19日発行 編集・発行 福島県立図書館  
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地  
Tel 024-535-3218 Fax 024-536-4787 <https://www.library.fcs.ed.jp/>



## イベントのご案内

### ◆福島県立図書館 森合移転40周年記念事業 令和6年度福島を生きる講座 第3回

「300年にわたる土地争い -大沼郡桑原村と宮下村の入会争論-」

講師 公益財団法人福島県文化振興財団 主幹 山田 英明(やまだ ひであき)氏

日時 9月21日(土) 14時から15時30分まで(開場13時30分)

現在の三島町にあたる大沼郡桑原村と宮下村の間で、慶長2年(1597年)から明治13年(1880年)にわたって繰り広げられた入会地をめぐる争いについてお話しいたします。

### ◆県民講座「親子に関する法律の最近の改正について」

講師 法テラス福島法律事務所 弁護士 圓谷 徹(つぶらや とおる)氏

日時 10月19日(土) 10時30分から12時まで(開場10時)

最近の法律改正について振り返りながら、これから法律がどのように運用されるのかについても考えていきます。

※どちらも事前申込制です。

お申し込みは来館・電話・図書館ホームページより受け付けています。

## 展示

### ◆福島県歴史資料館移動展

「江戸・明治の争論」

期間 9月6日(金)から10月2日(水)

場所 企画展示コーナー

### ◆福島県土木部

前期「流域治水関連の取組紹介」

後期「震災の教訓や記憶の伝承について」

期間 前期 9月6日(金)から9月18日(水)

後期 9月19日(木)から10月2日(水)

場所 ロビー展示コーナー

## おはなしかい

### ◆ちいさなおはなしかい

日時 10月10日(木)

10時30分から10時45分まで

場所 こどものへや

0歳から3歳のお子さんと保護者の方を対象とした、絵本の読み聞かせやわらべうたを楽しむおはなしかいです。

# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

## 人文・社会・自然

『休むヒント。』群像編集部／編 講談社

2024.4 914.68/㍿244

日々の生活でクタクタな皆さん、あなたにとっての「休み」とはどのようなものでしょうか？

本書は小説家やライター、漫画家、声優など、さまざまなジャンルの著名人が「休み」について記したエッセイ・アンソロジーです。休みに対する考え方は人それぞれ。いろいろなかたちの休みを垣間見ることができます。本書で休むヒントを見つけてみてはいかがでしょうか。『学校と日本社会と「休むこと」「不登校問題」から「働き方改革」まで』保坂 亨／著 東京大学出版会

2024.4 371.3/朴244

「欠席」の多い学生時代を送り、これまで学校の「欠席」にこだわって調査研究をしてきたという著者が、日本社会の長時間労働と学校教育を結びつけて考えた1冊。「具合が悪いときにはきちんと『休むこと』が当たり前の社会になってほしい」という願いが込められています。

『動物のひみつ ウォード博士の驚異の「動物行動学入門」争い・裏切り・協力・繁栄の謎を追う』

アシュリー・ウォード／著、夏目 大／訳 ダイヤモンド社

2024.3 481.78/㍿243

動物にとって集団で生きることには理由があります。脳の仕組みと関係した知能と本能の絶妙なバランスによって、社会性を発揮したユニークな行動を起こさせるのです。ウォード博士が紹介する様々な生き物の社会的な生態は、実に人間っぽく見えてくるのが不思議です。

## 児童・児童図書研究

『世界ぐるぐる怪異紀行 どうして“わからないもの”はこわいの？』奥野 克巳／監修、奥野 克巳／[ほか]著

河出書房新社 2024.3 388/オ

ヒマラヤのイエティ、オーストラリアの人喰い怪物、人を溺れさせるパナマの悪霊……。中学生から大人までを対象とした「14歳の世渡り術」シリーズの一冊である本書は、9人の文化人類学者が自分のフィールド（調査研究地）に「いる」怪異を紹介し、その地における“役割”を解説した本です。

“役割”とはどういうことでしょうか？例えばベナンでは、努力をしたのに結果が出なかった時に、「妖術をかけられていた」と見なすことがあります。そうすることで、自分にはどうしようもできないこと（妖術）が失敗の原因だったと考えることができ、気持ちが楽になります。ベナンにおいて、妖術はコントロールできないものを受け入れるための装置という一面があるのです。

他にも、ヴァヌアツで魔女に取り憑かれた体験談や、人の生き方にまで影響を与える中国の鬼の伝承など、怖くて面白い話がたくさん紹介されています。

## 雑誌・新聞

地域のさまざまな課題について特集された雑誌をご紹介します。ぜひご活用ください。

『都市問題』後藤・安田記念東京都市研究所

Z318.7/T8 2024.9(第115巻第9号,2024年9月号)

特集「地域公共交通の模索」

『地域福祉情報』ジャパン通信情報センター

Z369/C3 2024.8(VOL.8,通巻387号)

特集「孤立・孤独対策」

『ジチタイワークス』ジチタイワークス

Z318/J22 2024.8(Vol.33)

特集「空き家対策 地域独自のアプローチで空き家の放置を防ぐ！」

『社会教育』日本青年館「社会教育」編集部

Z379/S1 2024.8(第79巻8月号,通巻第938号)

特集「地域・学校・社会教育の魅力化 学校をハブとした地域の魅力づくり」

## 地域

『ロココク・キッチン』川内 有緒／編著、ロココク・キッチン・プロジェクト／編著 植田印刷所 2024.2

L914.6/K35/1

ノンフィクション作家・川内有緒氏と映画監督・三好大輔氏による、福島県内の国道6号線(通称:ロココク)沿いを旅しながら、そこに住む人々の「食」を切り口に暮らしを紐解き、エッセイとドキュメンタリー映画を作成するプロジェクト「ロココク・キッチン」。プロジェクトの一環で、大熊町・双葉町をはじめ県内の国道6号沿いに暮らしている人々から「食」にまつわるエピソードを募り、1冊の本が作られました。それがこの「ロココク・キッチン」という本です。ロココク沿いで生まれ育った人、震災後移住してきた人、避難解除後故郷へ戻ってきた人…多様な背景のある人々の「食」にまつわるあたたかな記憶が、生き生きと描かれています。

『47都道府県ご当地文化百科 7 福島県』

丸善出版／編 丸善出版 2024.6 L291/M2/1

毎回様々なテーマから都道府県ごとの特色を比較して紹介する「47都道府県百科」というシリーズがあります。これまでに刊行された中から30タイトルを選び、内容を都道府県ごとに再構成したうちの「福島県」の巻が本書です。遺跡や城郭などの「歴史」、くだものや発酵などの「食」、伝統行事や妖怪伝承などの「営み」、地名由来や温泉など「風景」の大きく四つの文化に分けて構成し、それぞれのテーマについて、基本的な特色とともに代表的なものを取り上げ解説しています。多様なテーマから福島県の文化や事物を見直すことができ、新たな発見もあるかもしれません。